

家庭菜園

Q & A

問題解決!



農産部 担い手課 営農主幹
検校 哲也

Q1 作付け前の畑に石灰をまくのはどうしてですか。

A1 酸性にかたむいた土壌のペーハー(pH)を調整するためにアルカリ分を含む石灰質肥料をまきます。ほとんどの野菜は、pH6.5前後が適しています。さつまいも、じゃがいもはpH5.5でも育ちますが、ほつれん草、えんどう豆はpH7前後が良く育ちます。

雨の多い日本では、土の中にあるカルシウムなどのアルカリ成分が流されてしまい、土が酸性にかたむいてしまいます。多くの野菜の故郷は地中海(キヤベツ)や中南米(トマト)、中央アジア(ニンジン)といった雨の少ない地域です。地下水の蒸発などでカルシウムが地表近くに持ち上げられ、土は中性に保たれています。

日本の酸性の土では、植物の根に有毒なアルミニウムイオンが溶け出したり、りん肥料が溶けにくくなります。酸性雨の影響もあります。

さらに、植物はミネラルを吸収するとき根から酸性物質を出します。窒素肥料はアンモニアを含んでいるため硝酸に変わって土を酸性化します。肥料をまいて野菜を育て続けると、どうしても酸性になってしまいます。

雨の多い日本については、酸性土壌との付き合いは続きます。そこで、石灰質肥料を使います。

種や苗に触れると障害を起こす消石灰や発熱する生石灰は扱にくいので、カルシウムとマグネシウムを補給する苦土石灰が一番便利です。ほかに、もみ殻くん炭も土壌改良を兼ねてアルカリ性にかたむ

ける効果があります。逆に、石灰のふり過ぎでアルカリ性になり過ぎたときは、硫などの肥料を使ったり、トウモロコシやソルゴーなどのクリーニングクローツを栽培するとアルカリ分が除去されます。



差し込み型
土壌酸度計

だわー
おまめ
おまめ
おまめ

Q2 稲づくりのポイントを教えてください。

A2 稲は水あつての作物です。水管理の良しあしが秋の実りを左右します。雑草も水管理の失敗から生えてきます。

除草剤処理時期の強い風や雨によるオーバーフローやモグラが掘った穴により、漏水といった想定外の要因などで、うっかり水を切らしてしまっただこともあるのではないのでしょうか。除草剤の処理層が田んぼ全体に広がるよう、しっかりと水を溜めたまま中干し管理します。そうすることによって、稲は順調に育ち分けて増やします。稲がたくましく育つてしまえば、雑草には日が当たりません。

多くの雑草は除草剤が効いている間に芽が終わるので、クログワイ、オモダカは除草剤の効果が無くなったころにも芽を出すことがあります。その時は、クリンチャーバスやバサグランの出番となります。

バサグランは、広葉の雑草が対象で、ヒエには効きません。クリンチャーバスだと、両方に効きますが、ヒエを消したいときは5葉期だいたい田植え後40日までに散布してください。両剤とも落水して浅水で散布します。中干しを始めて水が落ちきったら散布します。

と、一株20本ほどに分けつします。これ以上の分けつは要りません。秋に穂が着くのは多くて20本まで、これ以上は無駄な分けつです。中干しに入ります。

強制的に生長を抑えます。確実な穂を確保し充実を図ります。土の中に酸素が入り、根腐れが解消され、根が深く張ります。こうすることで倒伏に強くなり、コンバイン作業もやりやすくなります。

水をコントロールすることで、稲が健全に育ち、雑草も抑えられ、実りの秋を迎えられます。

